

相倉合掌造り集落

相倉合掌造り集落は、五箇山にある2つのユネスコ世界遺産のひとつです。相倉は2つある集落の大きい方で、ここには急勾配の茅葺き屋根が特徴的な伝統的合掌造り家屋が20棟あります。これら合掌造り家屋のほとんどは、およそ100年から200年前に建てられたものですが、最も古い家屋にはその建築が17世紀まで遡るものがあります。現在、これら合掌造り家屋には、地元の人たちが今でも住んでいるものもあれば、レストラン、博物館、店舗、観光客向けの宿泊施設に変わっているものもあります。

相倉は、庄川の西岸近くの山に囲まれた高原にあります。トチノキ、ブナ、ミズナラといった樹木が集落の背後に伸び、雪崩から集落を守る役割を果たしています。土地は主に家屋および農地として使われ、絹の生産を目的としたクワが栽培され、クワの一種で和紙の製造に使われるコウゾも収穫されます。しかし年月とともに、養蚕、和紙製造、塩硝生産は衰退し、農地は稲田へと変わっていきました。茅葺きに使われるカヤは、茅場と呼ばれる離れた山中で栽培されていました。

保存された20棟の合掌造り家屋のほか、相倉には注目すべき伝統的建築物が複数あります。これらは、2階建てに改造された合掌造り家屋、合掌様式には分類されない木造建築物、板張りおよび土で造った蔵、寺院、神社、道場（念仏の修行場）などの宗教的建築物といったカテゴリーにまとめられます。この地域は壮大な自然と紅葉が有名なので、集落は季節を問わず訪問の価値があります。しかし、魅力的な家屋が雪で覆われ灯りで照らされる冬は、魔法のような光景で、特に素晴らしいものとなっています。

相倉は、建物の大半が互いに短い距離にあるので、とても歩きやすくなっています。しかし、元気いっぱいなら、近くの坂を登って、集落のパノラマビューを堪能できる素晴らしい見晴らしポイントを見つけてみましょう。観光で訪れた方向けに、相倉民俗館や相倉伝統産業館など、集落の中には多くの見どころがあります。さらに、土産物店や宿泊施設として利用されている合掌造り家屋が6軒あります。そのほかにも、観光客が和紙づくりの伝統工芸の実地体験を楽しみながら、五箇山の和紙産業についての歴史を学ぶことができる「和紙づくりワークショップ」などのアクティビティーがあります。